



図書館だより 12月号

今年も残すところ、わずかになりました。コロナ禍で、たいへんな1年でした。また、今まで当たり前だったことが、いかに大切だったかに気がついた1年でもありました。様々な制約の中で、今できることは何か、今何をすべきかを、改めて考えてみましょう。今の自分がいることに感謝を、そして1日でも早くみんなが安心して暮らせるように祈りを込めて、メリークリスマス！！



開館日 12月21日(月)～12月25日(金) 5日間
*土・日、祝日、12月28日(月)～1月6日(水)は閉館します。
*1月7日(木)始業式は返却のみ受け付けます。
*1月8日(金)から開館します。
開館時間 12:45～16:30 ただし、貸出時間は12:45～13:45です。

- ★1人3冊まで借りることができます。
- ★冬休み中に借りた本の返却は、3学期(1月8日)でかまいません。
- ★ストーブの管理は教員が行いますので、勝手にスイッチを付けたら、設定温度を変えたりしないように、お願いします。



クリスマス・ウィークのお知らせ

前回のハロウィンウィークに続き、図書委員会ではクリスマス・ウィークを行います！

12月14日(月)～12月18日(金)
本を借りてくれた人には、図書館サンタからプレゼント★
どんどん借りてくださいね！



「クリスマス」を題材にした小説といえば、チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』やオー・ヘンリーの『賢者の贈り物』などが有名ですね。日本の文学でも、クリスマスを題材にしたものがたくさんあります。

八人の 子供むつまじ クリスマス	正岡 子規	俳句でも詠まれています。
ずり落ちず 聖樹に積みし 綿雪は	山口 誓子	「聖樹」はツリー、「降誕祭」
雪道や 降誕祭の 窓明り	杉田 久女	はクリスマスのことです。

著作権上	著作権上	著作権上
表紙は	表紙は	表紙は
掲載せず	掲載せず	掲載せず

『輝く夜』百田尚樹、
『キャロリング』有川浩、
『太陽の塔』森見登美彦など、
クリスマスを描いた小説も
多数あります。
それぞれ違ったクリスマスを
味わうのもいいですね。



「ローマの休日」や「ティファニーで朝食を」で有名な女優のオードリー・ヘップバーンは、クリスマス・イヴに2人の息子にこの詩を読み聞かせたといわれています。
(詩はアメリカの詩人、サム・レヴェンソンが孫娘に送った手紙だそうです。)

魅力的な唇であるためには、美しい言葉を使いなさい。
愛らしい瞳であるためには、他人の美点を探しなさい。
スリムな体であるためには、飢えた人々と食べ物を分かち合いなさい。
豊かな髪であるためには、一日に一度子供の指で梳いてもらいなさい。
美しい身のこなしのためには、決してひとりで歩むことがないと知ることです。
物は壊れれば復元できませんが、人は転べば立ち上がり、失敗すればやり直し、挫折すれば再起し、間違えれば矯正し、何度でも再出発することができます。
誰も決して見捨ててはいけません。人生に迷い、助けて欲しいとき、いつもあなたの手のちょっと先に、助けてくれる手がさしのべられていることを忘れないで下さい。年をとると、人は自分にふたつの手があることに気づきます。

ひとつの手は、自分自身を助けるため、もうひとつの手は他者を助けるために。



来年もすばらしい本との出会いがありますように。図書館もみなさんをお待ちしています。